2020年、世界がひとつに

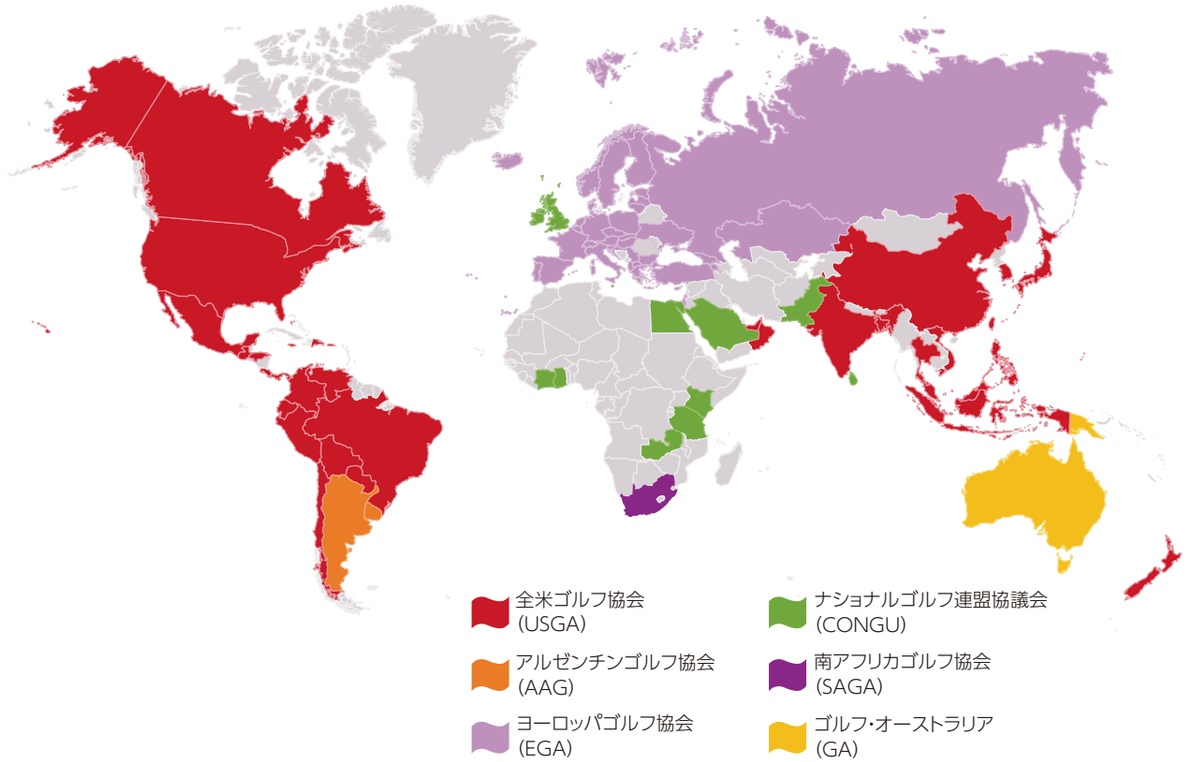
特集 2

ワールドハンディキャップシステムスタート

ついに世界共通のハンディキャップシステムが誕生する。現在、世界には6つのハンディキャップシステムが存在しており、計算方式の違いなどで同じ技量のプレーヤー同士でも数値が異なってくるケースがあった。世界中どこでも同じハンディキャップでプレーできるという理想に向け、R&A、USGAなどが一致団結。研究を重ね、ワールドハンディキャップシステムを開発した。施行は2020年から。世界がひとつになる新たなハンディキャップシステムを解説する。

現在のHDCP制度分布

現在、6つの主要ハンディキャップシステムが世界中で運用されています。



現在、世界にはUSGA、ゴルフ・オーストラリア、ナショナルゴルフ連盟協議会（英国およびアイルランド）、ヨーロッパゴルフ協会、南アフリカゴルフ協会、アルゼンチンゴルフ協会の各団体が運用する計6つのハンディキャップ（以下HDCP）システムが存在している。JGAが採用しているのは、USGAのシステムだ。

これらのシステムはそれぞれの地域ではとても有効に機能している。しかし、世界的な視点でみれば各々の特徴や計算方式の違いなどで同じ技量のプレーヤー同士であってもシステムによって数値に差異が生じ得るという課題もあった。これがアンダーHDCP競技に参加するゴルファーや競技運営者にとって頭を悩ます種になっていた。

本当の意味で世界中のプレーヤーが公正かつ公平に競い合える世界統一HDCPシステム構築の機運が高まり、議論を開始した。6つのHDCPシステム運用団体とR&Aが一致団結して均一な尺度の開発に取り組んだ。その後、正式な委員会を立ち上げ、JGAなど世界15カ国のナショナル協会も参加。研究と議論を重ね、ワールドハンディキャップシステム（以下WHS）が完成した。2017年には世界15カ国でWHS案に対する調査を実施。5万2000件の回答があり、WHSの理念に賛同する意見が76%。反対意見はわずか2%だった。

WHSはそれぞれの既存HDCPシステムが持つ利点を検討し、誰でも受け入れ、理解・運用しやすく、且つ正確性と完全性を損なうことがないように設計されている。ベースとなっているのはUSGAのHDCPシステム。すでに世界各地で幅広く採用されているUSGAコースレーティングおよびスロープレーティングシステムを使用することで均一なコース難易度を評価できるという判断である。したがって、現在、日本で運用されているJGA HDCPシステムに大きな変更はない。各プレーヤーが持っているHDCPインデックスはWHS HDCPインデックスに換算され、継続して使用することになる。

WORLD HANDICAP SYSTEM

R&A USGA

ワールドハンディキャップシステム

新しい世界統一ハンディキャップシステムへ移行。
管理・運用は地域毎にナショナル協会が担います。

競技ラウンド、
レクリエーションラウンドを
問わず、ゴルファーは
誰とでも公平に
ゲームを楽しめる。

ゴルフ技量を示す
世界共通、単一の尺度。
HDCPをどこへでも
持ち運んで
使用することが可能。

世界中の様々な
ゴルフ文化に適応し、
簡単に使用できる、
近代的なシステム。

全世界の
ゴルフコミュティーにおいて、
すべてのゴルファーが、
一貫性のあるHDCPを
持つことが可能。

ワールドハンディキャップシステム（WHS）の基本理念

1. できるだけ多くのゴルファーがハンディキャップを取得・保持できるようにする。
2. 技量、性別、国籍の異なるゴルファーが、ハンディキャップを持ち歩いて世界中のゴルフコースをプレーすることができ、公正且つ公平に競えるようにする（システム全体の公平性を実現する）。
3. 世界中のコース を通常のコンディション時にプレーした時に、ゴルファーが合理的に達成することができるスコアを、十分な精度で示す。
4. プレーヤーの技量を示す十分な証拠に基づいたハンディキャップ監視・検証システムを導入する。このことにより、すべてのゴルファーの利益を守る。
5. ゴルフ規則に従ってプレーすることの重要性を強調する。
6. プレーイングコンディションの変動を実行可能な限り反映させる。
7. 可能な限り均一なシステムを導入するが、世界中の様々なゴルフ文化を反映するための柔軟性と選択肢を組み込む。
8. ゴルフ倶楽部やゴルフ界全体にとって、理解しやすく且つ採用しやすいものとし、また、できるだけ妥当な費用で導入および運用できるようにする。
9. ゴルフ界全体の信頼を得られるものでなければならない。
10. 主要ゴルフ団体が協調して定期的な検証を実施する。

では、進化した部分はどこか。ひとつはHDCPインデックスが文字通り世界中で使用できるようになることである。現在も日本と同様にUSGAのHDCPシステムを採用している南北アメリカ、東アジアを中心とした50カ国以上で私たちが持っているHDCPインデックスが使用できる。ただ、ヨーロッパやオーストラリアなど、それ以外の地域では、そのまま使用することはできない場合もあった。それがWHSとなることで、世界中どこにでも持ち運べるHDCPとなるわけだ。

各プレーヤーの技量を今まで以上に正確にHDCPに反映させる工夫も施されている。中でも目を引くのがコースコンディションと気象条件がプレーヤーのパフォーマンスに及ぼす可能性の影響を考慮するというシステムである。

同じゴルフ場であっても、プレーする日の気象条件やコースコンディション、ピン位置などによって難易度は変わる。しかし、USGA方式では晴天無風であろうが強い風雨の中でのプレーであろうが、HDCPの算出法は変わらないのが現状だ。

一方でヨーロッパゴルフ協会は、そのプレーヤーのスコアを元にして調整している。スコアから判定した当日のコンディションが通常の難易度と大きく異なる場合は、それを加味して計算する。WHSでは、この方式を採用することになった。これによって、より一層正しい技量の判断が可能になるといえる。

ただし、スコアカード提出者が少なければ難易度の判断がしづらいので、「提出者8人以上」という決まりがある。スコアカード提出者が8人に満たなければ、その日の平均スコアがいくら悪くても反映されない。

もう一点、留意しておきたいのが提出期限である。難易度の判定に採用されるのはプレー当日中に提出されたスコアカードのみ。翌日以降に提出されたものはHDCP算出には有効だが、難易度判定に関しては含まれない。したがって、迅速なスコアカード提出がより正確なHDCP算出につながるという側面が出てくるわけだ。HDCPの更新は、現在の毎月1回からスコア提出毎に変更となる。

新たにHDCPを取得したいというゴルファーにとってやさしいシステムでもある。従来は新規取得のためには最低スコアカード5枚（90ホール分）が必要だったが、WHSでは3枚（54ホール分）で取得可能。より早く、自分のHDCPを持つことができる。

HDCPの上限は男女とも54.0にまで拡大（JGA HDCPでは現在、男子36.4、女子40.4が上限）される。たくさん叩いてしまう初心者にとっては、従来のもの以上に自分の技量に見合ったHDCPをもらえることになるから大きなメリットといえる。

また、HDCP算出に採用されるスコアカードの枚数も変更になる。現在は最新スコア20枚中ベスト10枚がHDCPの算出に採用されているが、WHSでは最新20枚中ベスト8枚となる。さらに、この8枚の平均方式による計算に、過去1年間に証明されたインデックスの履歴を更に組み込むことで、より正確な技量反映と過度の数値変動防止が可能になる。

USGAのHDCPシステムをベースに、世界のHDCPシステムの長所をミックスさせたといえるWHS。ゴルフの門戸拡大と発展をさらに推し進める強力なツールとなることが期待される。

都内で開催されたWHS指導者育成セミナーの様子

WHS 担当者インタビュー INTERVIEW

4月25日に都内でWHSの指導者育成セミナーが開催され、各地区ゴルフ連盟のHDCP委員ら約30名が出席してWHSの基礎や計算方法などについて講義を受けた。講師として来日したR&Aのクレア・ベイツ女史、USGAのスティーブ・エドモンドソン氏にWHS導入に至る経緯やメリットについて聞いた。

講師として来日したR&Aのベイツ女史（左）とUSGAのエドモンドソン氏（右）

―― まず、WHS導入決定までの経緯をお聞かせください。

プレーや用具などの規則については、すでにUSGAとR&Aが共同で作成し、全世界で同じものを運用しています。ただ、HDCPに関しては世界で6つの異なるシステムが存在し、それぞれの地域で運用している状況でした。現状のままでは同じプレーヤーであっても地域によってHDCPの数値が変わってくることがあり、競技の場合は公平さを欠く恐れが出てきます。世界中、同じ基準でプレーヤーの技量を図れるようにしたいという機運が徐々に高まり、R&Aと6つのHDCPシステム運用団体が集まり、初めて話し合いを行ったのが2012年。場所は全英オープンの会場でした。その後、会議を重ね、まず「できるだけ多くのゴルファーがHDCPを取得・保持できるようにする」「技量、性別、国籍の異なるゴルファーが、HDCPを持ち歩いて世界中のゴルフコースをプレーすることができ、公正且つ公平に競えるようにする」など、ベースとなる理念を決めていきました。次に、それらの理念に沿った具体的な内容を構築すべくHDCPオペレーションコミッティという委員会を設置し、WHSをつくりあげていったのです。長い年月を要しましたが、今、ようやく世界各地で教育プログラムを提供し、みなさんに説明できるところまで到達した次第です。

ベイツ女史とエドモンドソン氏を中央に、セミナーに参加した各地区連盟のHDCP委員

―― WHSはゴルファーにどのようなメリットをもたらすのでしょうか。

一番のメリットは世界中どこへでも持ち運べるHDCPであるということでしょう。日本がUSGAのHDCPシステムを導入した時も、持ち運びができるようになったということが大きな特色でした。今回はそれが世界中に広がったということです。世界共通の基準で計算されたHDCPをひとつ持っていれば、世界のどこに行ってもその数字をコースHDCPに換算して使うことができるわけです。東京のHDCP6.0のプレーヤーはニューヨークでもロンドンでもブエノスアイレスでも6.0で通用する。世界中で技量のレベルが統一されるわけです。

―― 理念のひとつに「できるだけ多くのゴルファーがHDCPを取得・保持できるようにする」というものがあります。WHS導入によってゴルファーの拡大という効果も期待できるのでしょうか。

ゴルファーの中には「HDCPを持つほど上手じゃない」、あるいは「HDCPを取れるほどプレーしていない」と考えている方がいます。でも、実際はそんなことはないのです。私たちはHDCPというものは、楽しくゴルフをしてもらうためにあると考えています。WHSでは、よりHDCPを簡単に取得できるようなシステムになっています。初心者であっても、プレー回数が少ない方でもHDCPを保持してゴルフを楽しめるということを知ってほしいのです。WHSではHDCPの上限を男女ともに54.0としています。この数字は、ゴルフを始めたばかりの方も含め、誰もがHDCPを取得できることを表しています。HDCPを持てば、ほかのゴルファーと公平に楽しく競い合えるだけでなく、自分自身の上達の経緯も数値として具体的に把握できる。それによって、ゴルフに対するモチベーションがより高くなるという効果も期待できると考えています。

―― WHSはゴルフの世界的な活性化にもつながる可能性があるわけですね。

そう期待しています。R&AとUSGAはゴルフの発展のためにさまざまなことに取り組んでいます。WHSもそのひとつであり、ひとりでも多くのゴルファーがHDCPを持つことでゴルフをよりエンジョイし、末永くプレーしてくれることが願いです。WHSは50年後、100年後、あるいはもっと先の未来までゴルフが繁栄していくための大切なツールだと考えています。

―― 世界中どこでも公正・公平にプレーができるWHSを活用すれば、世界的な規模でのアンダーHDCP競技が開催可能かもしれません。

アマチュアの国際競技は基本的にトップレベルのスクラッチ競技ですから、アンダーHDCPの国際競技は目新しいと思います。WHSの導入によって世界中のゴルファーが同じ基準のHDCPを持てるわけですから、それをベースにして競い合えることができれば最高ですね。

―― JGAではHDCPインデックス取得者を対象にした「スポーツ庁長官杯ゴルフフェスタ全国大会」を実施しています。プレーしたスコアを提出して順位を決めるという日本全国規模のアンダーHDCP競技で、8月のゴルフウィークを含めた期間に、昨年は74のコースで個人戦、団体戦合わせてのべ2000人近い方が参加してくれました。

いいアイディアだと思います。世界規模で行うと、すごい人数になりますね。地域や国単位だけでなく、地球の裏側のゴルファーとも競えるわけですから、無限の可能性が広がりますね。まずは来年、無事にスタートし、世界各地で浸透していけば、そのような新しい取り組みにも挑戦できるでしょう。